



↑クスノキの下を通って下



↑昔も今も変わらず立ちつ

# 樹齢48年驚きの6メートル 南ヶ丘の星野さん

## 日進の木・キンモクセイ物語

折戸町の高松池から南に進み、南ヶ丘に入る道へと曲がると、ひととき大きな木が目映る。庭木にしては規格外のサイズ。そういうえるキンモクセイの一本だ。

「最近一段と大きくなったよ。うな気がします」。星野繁行さん(65)、恵子さん(66)夫婦は照れくさそうに笑った。その樹高は2階建ての屋根に並ぶ勢いで6メートル。たまたま居合わせたガラス屋の作業員も木の迫力に驚く。

かつて周辺は山だった。それまでの住所は大字折戸字枯木。昭和44年に大和団地による区画整理事業で宅地造成が始まり、南ヶ丘が誕生した。恵子さんはもともと日進村の生まれで、家は亡き父が同年に新築した。今は夫婦と母の3人のほか、愛猫・かつお君(10歳・オス)と暮らしている。キンモクセイの木は造園業を

営む親戚が、家を建てた頃に植えた。今年で樹齢48年になる星野家のシンボルツリーだ。木の剪定は繁行さんの仕事。上の方には手が届かず、「下枝をのこざりて切り落とすだけで一苦労。そろそろ造園屋に相談してみようか」と頭を悩ませている。恵子さんは高校卒業後、勤務先で繁行さんと出会い、同49年に結婚した。「木はまだ小さかったはず。周りにほとんど家がなく和合ゴルフ場を一望できました。大会のとき『ワーツ』という大歓声がよく聞こえました」と懐かしむ。繁行さんは小説家の大江健三郎と同郷、愛媛県内子町の農村育ち。退職後、日進駅近くのマンションで管理人として働き3



# 笑顔

そして、未来へ

といだ あずさ  
樋田梓さん (香久山)

「初心者でも楽しめるコーラス」の講座に参加しました。学生の時以来で、久しぶりに歌い、とても楽しく参加させていただきました。4歳の娘も歌が好きなので、家では一緒に歌っています。

五本締め魂でおもてなし

どうぐち だいき  
商工会青年部実行委員長・洞口大樹さん(31)と皆さん

岩崎城址公園などで2日に開催する春まつりで青年部ブースを出店します。たませんとリング焼きの他にゲームなど、皆さまに心をほっこりしていただけるおもてなしをします。今年のまつりは30周年の節目。「一人の力でできなくても仲間が集えば何でもできるんだ」(岩田匡司青年部長)という五本締め魂の精神で、いつも以上に団結して盛り上げます。



も、来年3月、クスノキに見送られる一人だ。「周りが変わってもこの木は変わらない。お父さんやおじいさんが子どもの時も、その前にも

あつた、と歴史を肌で感じられる大切な木です」と、元氣よく校庭を走り回る子どもたちを優しく見つめながら、そう話してくれた。